



コスモス



8月:葉月

9月:長月

No. 5

【知】 進んで学びよく考える子 【徳】 明るく思いやりのある子 【体】 たくましくねばり強い子

医師・中村 哲氏に学ぶ

校長 清水 勲

夏休みが終わり、2学期が始まりました。過日行われた「親子環境整備」には、多くの保護者の方々に御参加いただき、ありがとうございました。お陰様で、気持ちよく2学期の学校生活を始めることができますこと感謝申し上げます。

7月下旬、「クリアこうのす」で行われた「医師 中村哲の仕事・働くということ」というドキュメンタリー映画の上映会に行っていました。

中村哲氏は、医師として中東アフガニスタンで医療活動に従事するとともに、用水路の建設に生涯を捧げた方です。『人々の命や健康を守るためには、百人の医者よりも一本の用水路が必要だ』という答えを見出し、まったくの素人だった土木建築をゼロから学び、多くの井戸を掘り、そして、総延長 25 kmにも及ぶ用水路の建設を実現しました。残念なことに、2019年12月4日、いつものように用水路建設の現場へ向かう道中、身代金目的の武装集団の凶弾に倒れ生涯を終えました。

中村哲氏の言葉は、私たちに多くのことに気付かせるとともに、考える機会を与えてくれます。その言葉の一つ一つには、身を挺して本気で「人のため」という崇高で険しい道を切り拓いてきた人しか備えない、真実と重さがあるように感じます。

- ・己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。
人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。
そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない。
だが自然の理に根差しているなら、人は空理を離れ無限の豊かな世界を見出すことができる。
そこで、裏切られることはない。
- ・完成した「マルワリード用水路」は、逃げ場を失った多くの人々に希望を与え続けるだろう。
私もその一人である。私たちの共有した労苦と喜びの結晶は、人々の命の営みが続く限り記憶されるだろう。これは人間の仕事である。
- ・人は愛するに足り、真心は信ずるに足る。

中村氏が語る、「これまでの人工的な経済発展の限界」や「自然との調和の重要性」、そして、「正義のための対立の無意味さ」は、地球に生きている人間として「大きな曲がり角」に来ている今だからこそ、『誰も向き合わなければならない問題』を投げかけているように思えてなりません。

以前、中村氏は、ある講演会で小学生の子供から「自分はそんな凄いことはできないのですが、私たちができることは何ですか?」と質問された時、中村氏は次のように答えられたとのこと。

「身近な人への優しさを大切にしてほしい。隣にいるお友だち、そして家族へ真心をもって、優しくしてほしい。困っていると思ったら、救いの手を差し伸べること。これがとても大切です。」

学校で上映可能なDVDを購入したので、各学級で視聴させたいと考えています。同じ時代を生きていた偉人・中村哲氏の生き様を知ることが、子供たちの中に将来の糧となる貴重な種をまくことに繋がると信じています。